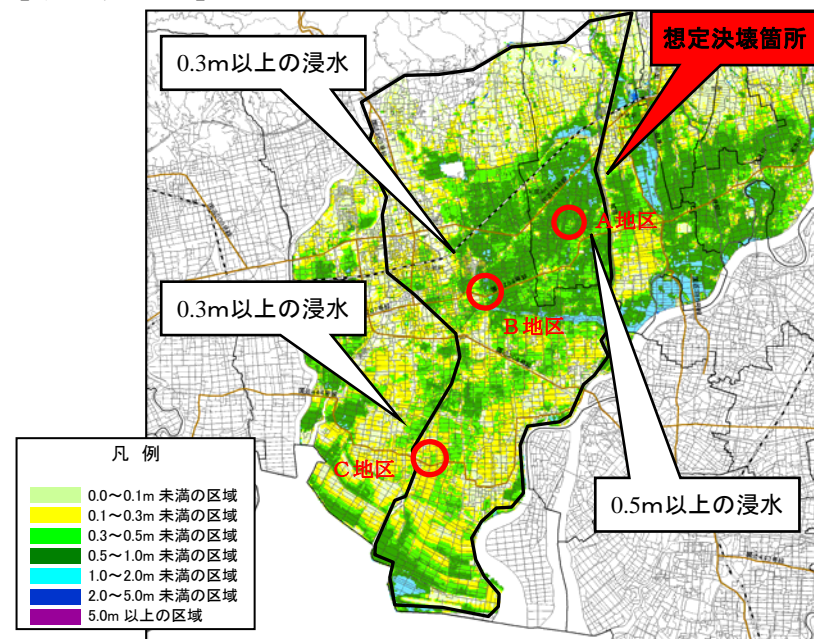


# 筑後川 ①佐賀市街地拡散型はん濫（堤防決壊地点：城原川右岸 5.6km）

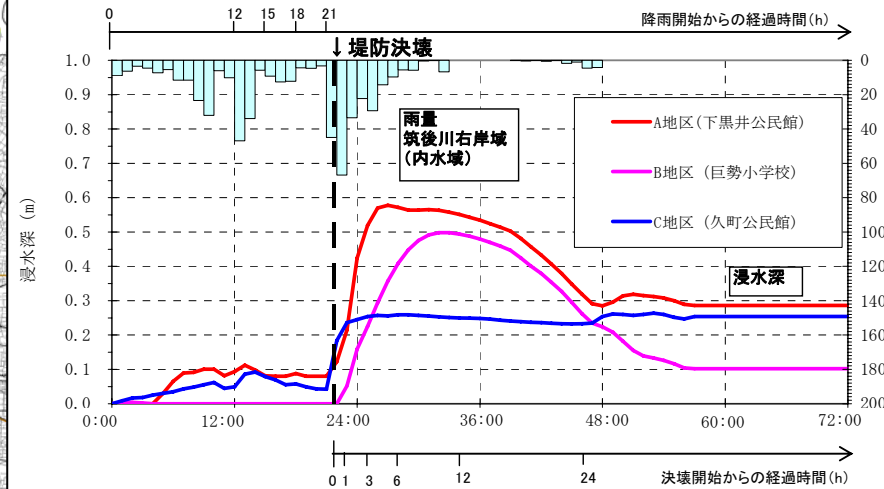
## 【概況】

- 最大浸水深：はん濫水が伝播する城原川右岸区域では、広い範囲で0.3m以上の浸水深が発生。
- 最大流速：堤防決壊箇所付近では比較的大きな流速が発生する恐れがある。
- 浸水継続時間：浸水継続時間は海岸部を除く城原川沿川の大部分で2日以上4日未満である。
- 浸水状況  
 (決壊直前までの状況)  
 A地区付近で0.3m以上の内水による浸水が発生する。  
 (決壊後から概ね浸水解消までの状況)  
 決壊箇所からのはん濫水は、城原川右岸沿いを下流の方向に伝播する。下流方向は6時間程度で神崎市巨勢町高尾(巨勢小学校・B地区)に到達。B地区は、決壊12時間後から浸水解消に向かう。

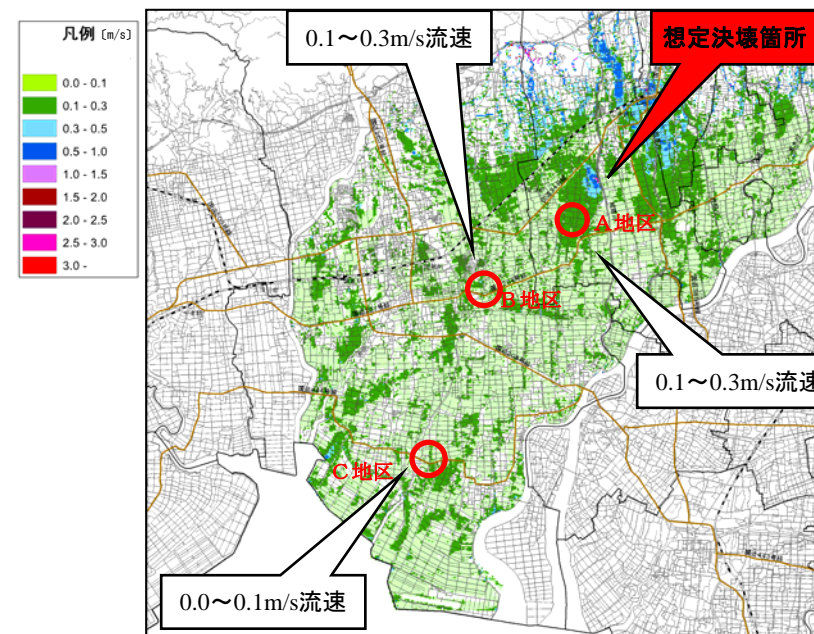
## 【最大浸水深】



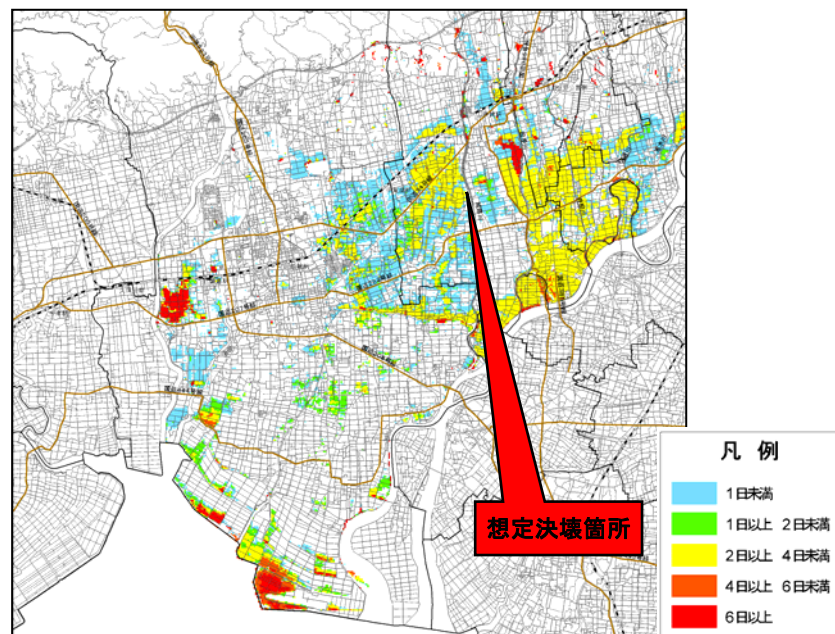
凡例	A地区	佐賀市千代田町黒井(下黒井公民館)
○ 当該ブロック界	B地区	神崎市巨勢町高尾(巨勢小学校)
	C地区	佐賀市川副町小々森(久町公民館)



## 【最大流速】

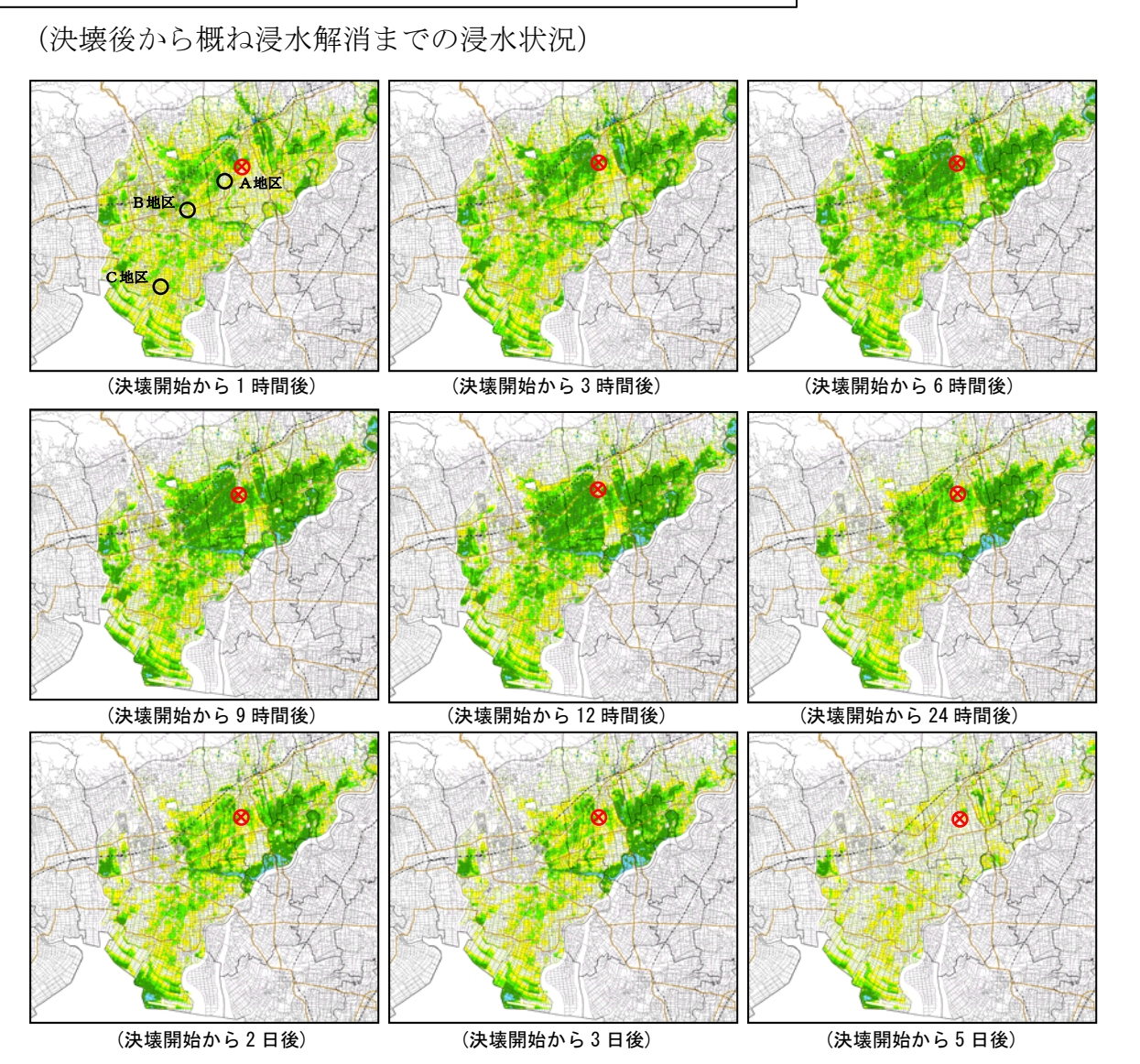
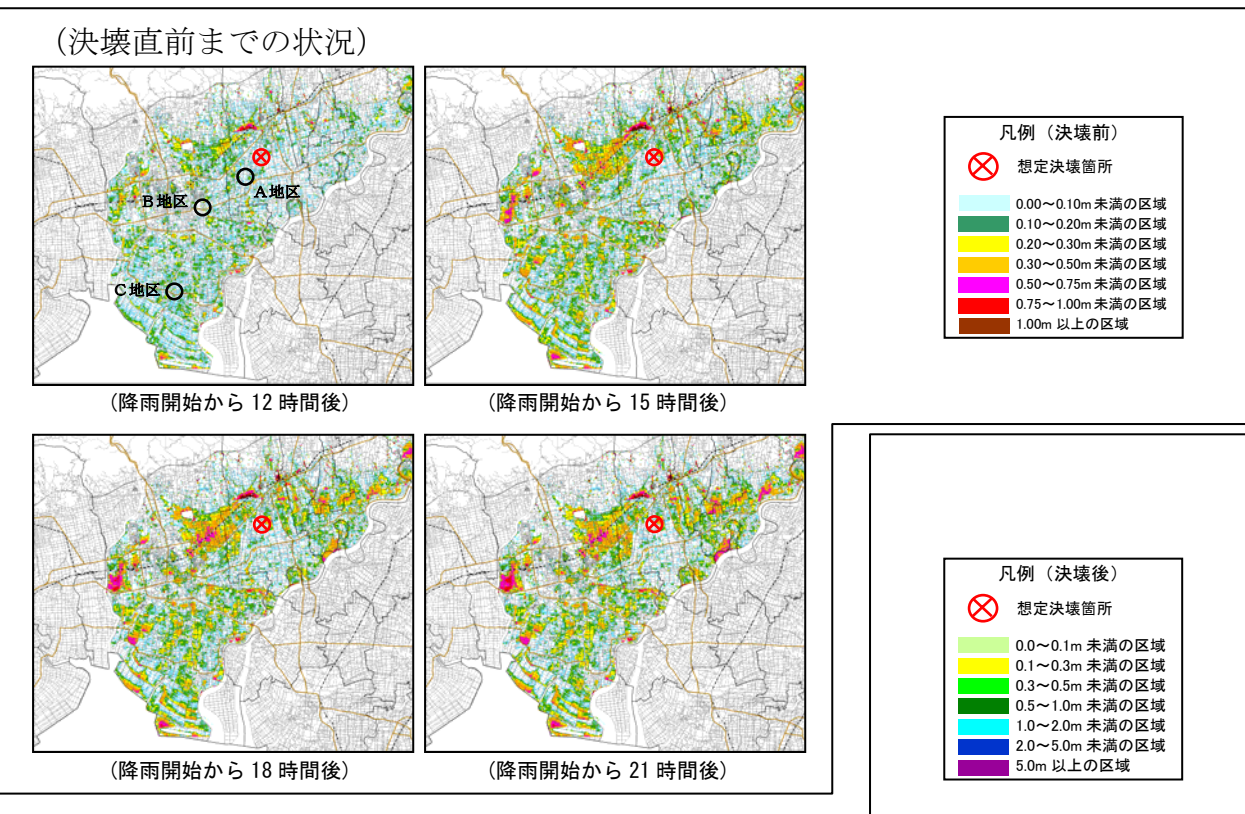


## 【浸水継続時間】



※浸水深50cm以上を対象とする。

## 【浸水状況】

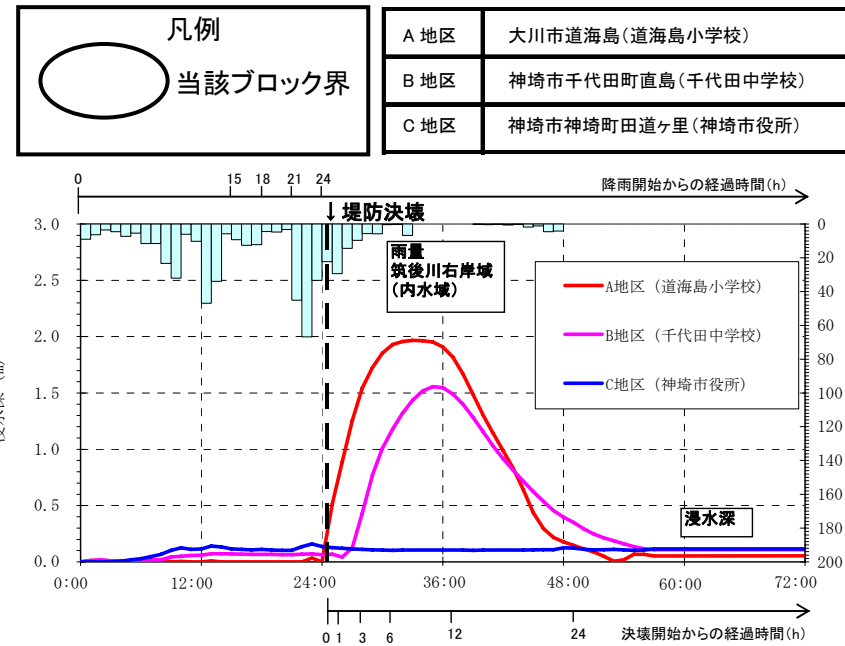
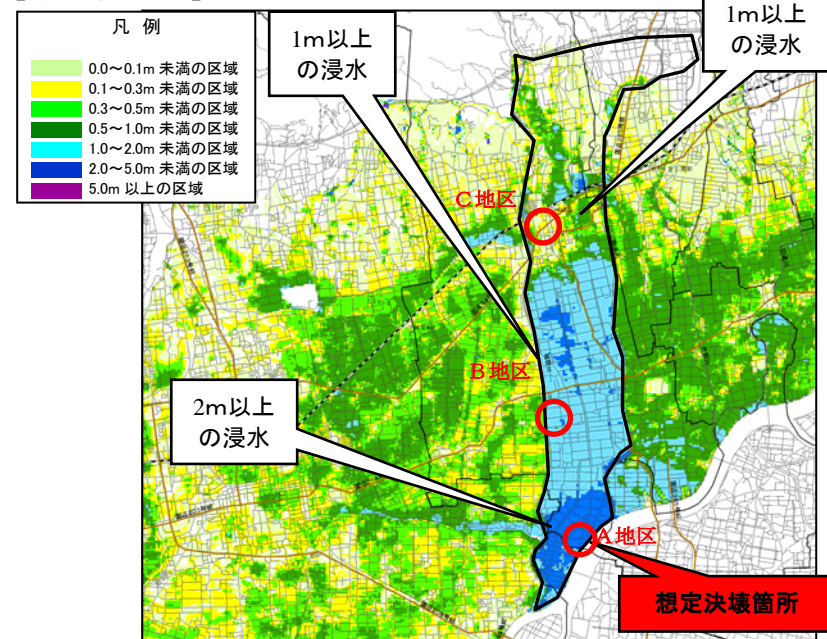


# 筑後川 ②神崎市街地貯留型はん濫（堤防決壊地点：筑後川右岸 10.8km）

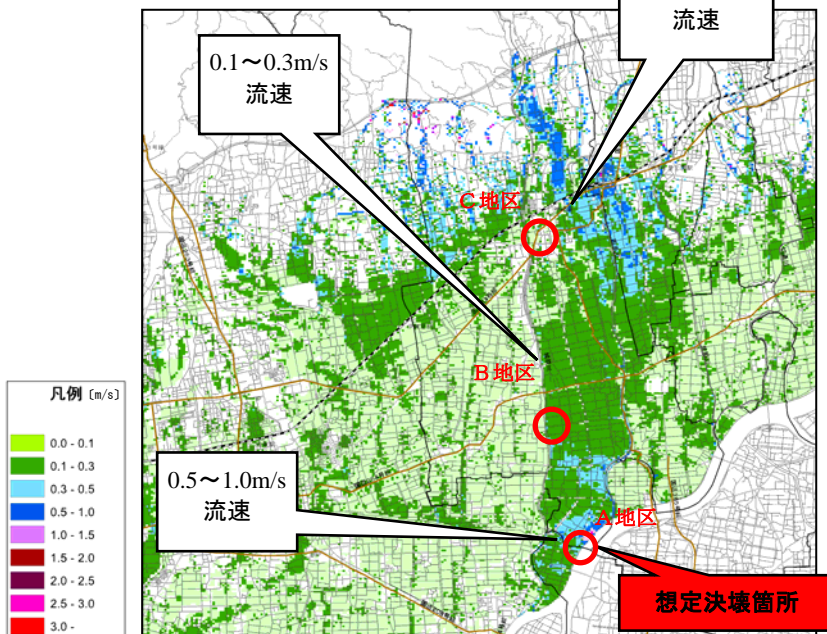
## 【概況】

- 最大浸水深：はん濫水が伝播する城原川左岸と田手川右岸の区域では、想定決壊箇所直近で2m以上（A地区）、北側では1m以上（B地区）の浸水深が発生する。
- 最大流速：堤防決壊箇所付近では比較的大きい流速が発生する恐れがある。
- 浸水継続時間：浸水継続時間は大部分で2日以上4日未満となっている。
- 浸水状況  
 (決壊直前までの状況)  
 広範囲で0.3m以上の内水による浸水が発生し、一部で0.5m以上の浸水が発生する。  
 (決壊後から概ね浸水解消までの状況)  
 決壊箇所からのはん濫水は、城原川左岸沿いと田手川右岸を伝播し、6時間程度で神崎市千代田町直島（千代田中学校・B地区）にまで到達。B地区は、決壊6時間後から浸水深1.0m以上となるが、浸水解消に向かう。

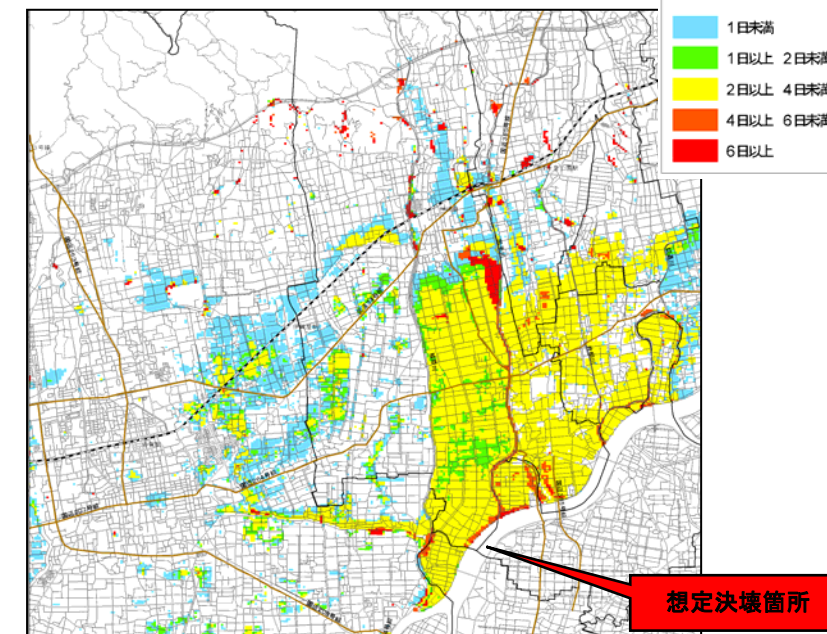
## 【最大浸水深】



## 【最大流速】

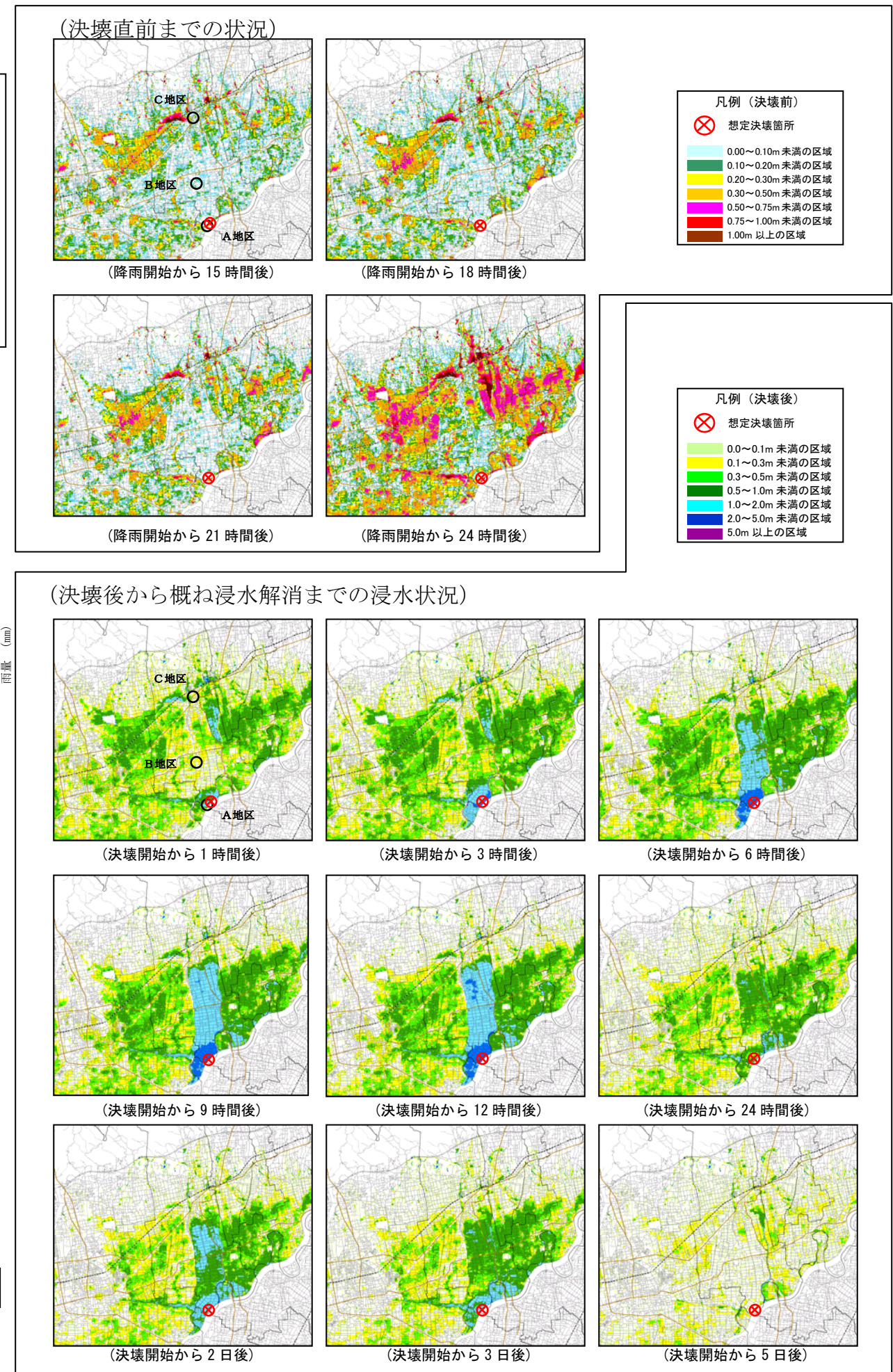


## 【浸水継続時間】



※浸水深50cm以上を対象とする。

## 【浸水状況】



# 筑後川 ③田手川以東拡散型はん濫（堤防決壊地点：筑後川右岸 19.4km）

- 最大浸水深：はん濫水が伝播する筑後川右岸区域では、広範囲にわたり 1m 以上の浸水深が発生。決壊箇所より下流側の神崎市千代田町迎島（西蓮寺・C 地区）付近では 2m 以上の浸水深が発生する。
- 最大流速：堤防決壊箇所付近では比較的大きい流速が発生する可能性がある。
- 浸水継続時間：浸水継続時間は大部分で 2 日以上 4 日未満であるが、場所によって 6 日以上のある。
- 浸水状況

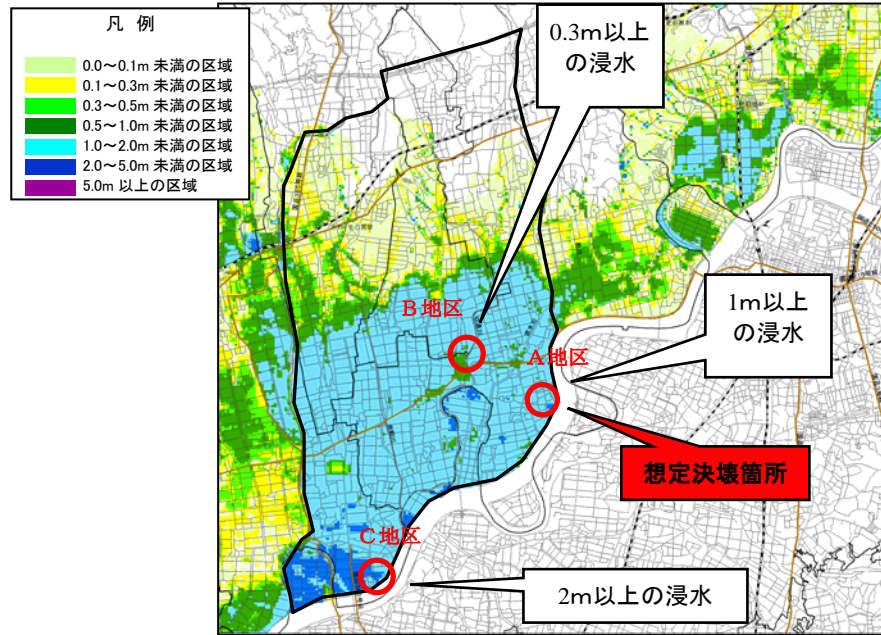
## （決壊直前までの状況）

広範囲で 0.75m 以上の内水による浸水が発生。一部では 0.75m 以上の浸水が発生する。

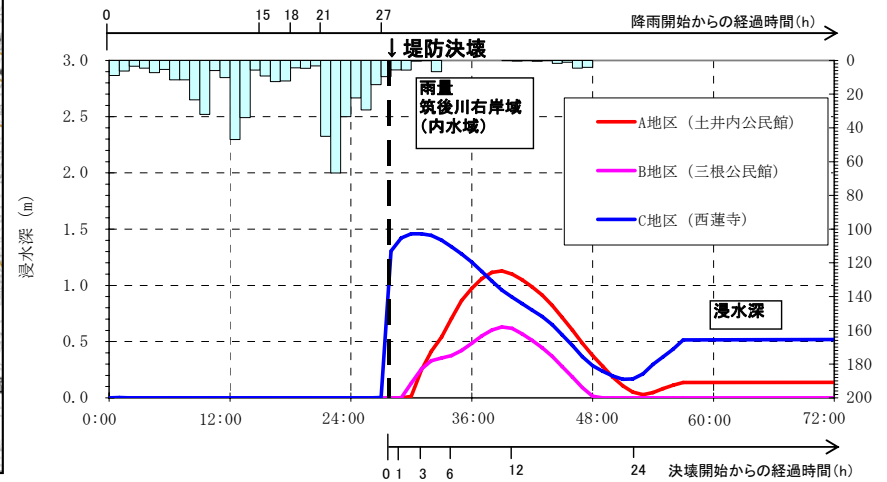
## （決壊後から概ね浸水解消までの状況）

決壊箇所からのはん濫水は、筑後川右岸沿いを伝播し、3 時間～6 時間程度で C 地区に到達。ブロック全域で、決壊 12 時間後から浸水解消に向かうが 2 日後には二山目の雨の影響で再び浸水が拡大する。

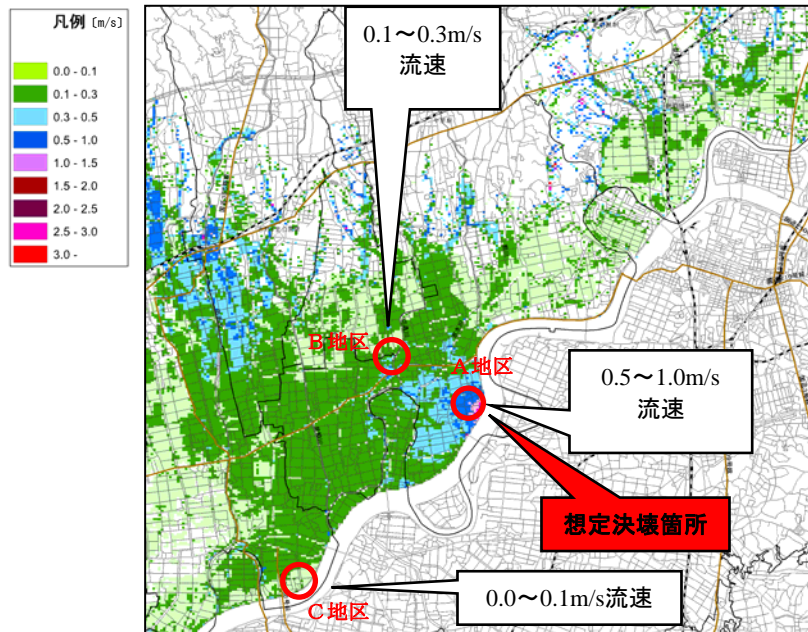
## 【最大浸水深】



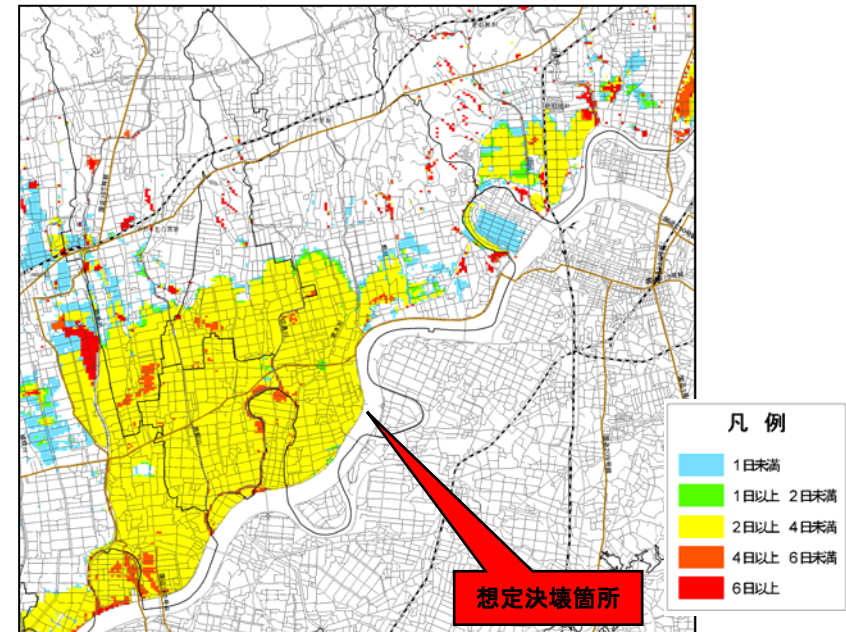
凡例	○	当該ブロック界
A 地区	みやき町天建寺(土井内公民館)	
B 地区	みやき町市武(三根公民館)	
C 地区	神崎市千代田町迎島(西蓮寺)	



## 【最大流速】



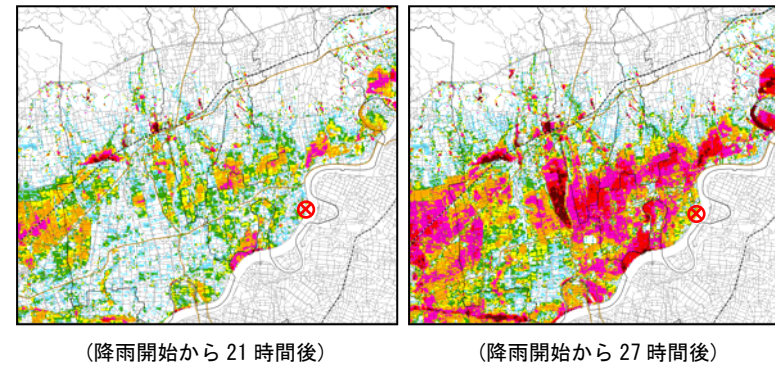
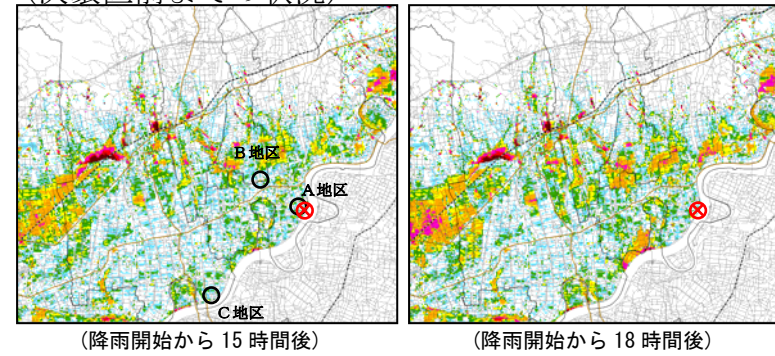
## 【浸水継続時間】



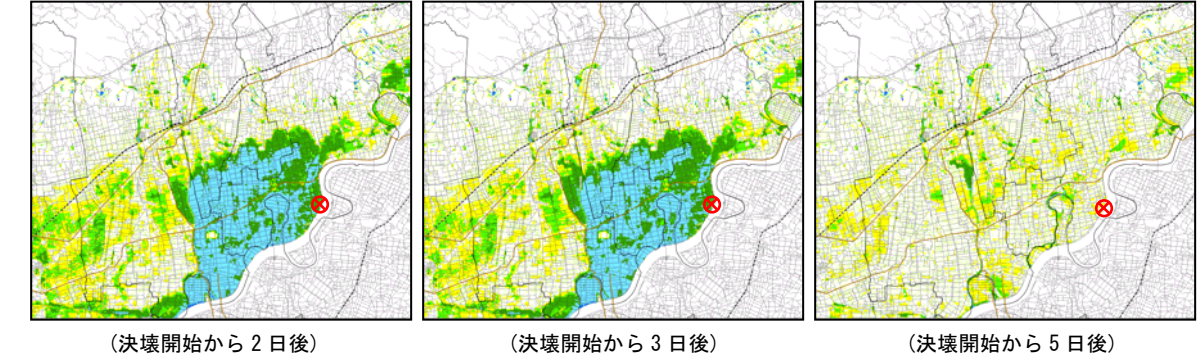
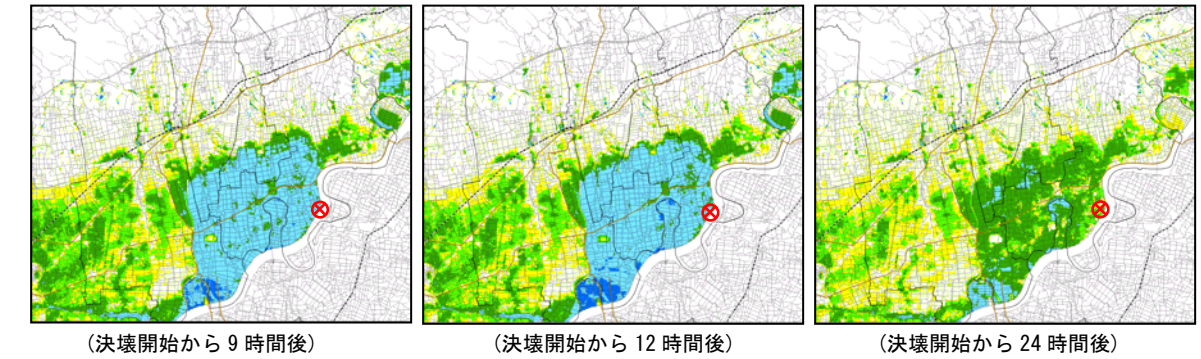
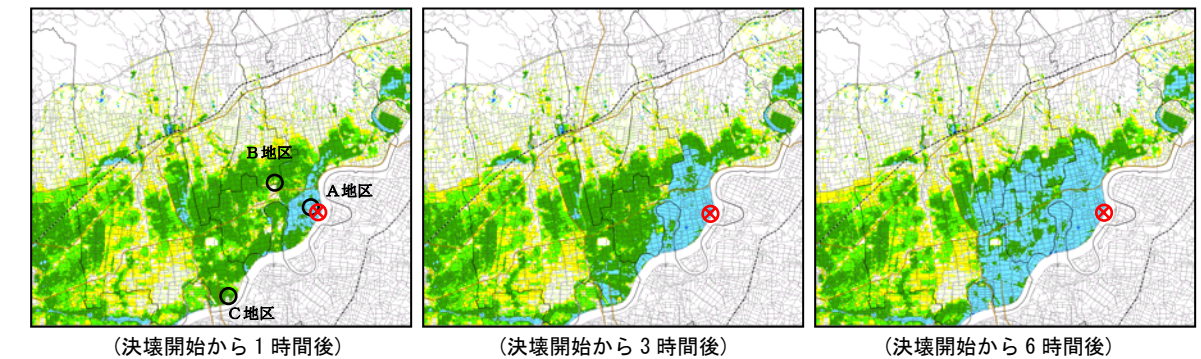
※浸水深 50cm 以上を対象とする。

## 【浸水状況】

### （決壊直前までの状況）



### （決壊後から概ね浸水解消までの浸水状況）



# 筑後川 ④寒水川以東拡散型はん濫（堤防決壊地点：筑後川右岸 25.4km）

## 【概況】

- 最大浸水深：はん濫水が伝播する筑後川右岸区域では、想定決壊箇所付近の久留米市長門石町（長門石小学校・A地区）で1m以上、決壊箇所から西側（B地区）では2.0m程度の浸水深が発生する。
- 最大流速：堤防決壊箇所付近では比較的大きい流速が発生。
- 浸水継続時間：浸水継続時間は大部分で2日以上4日未満である。

## ■ 浸水状況

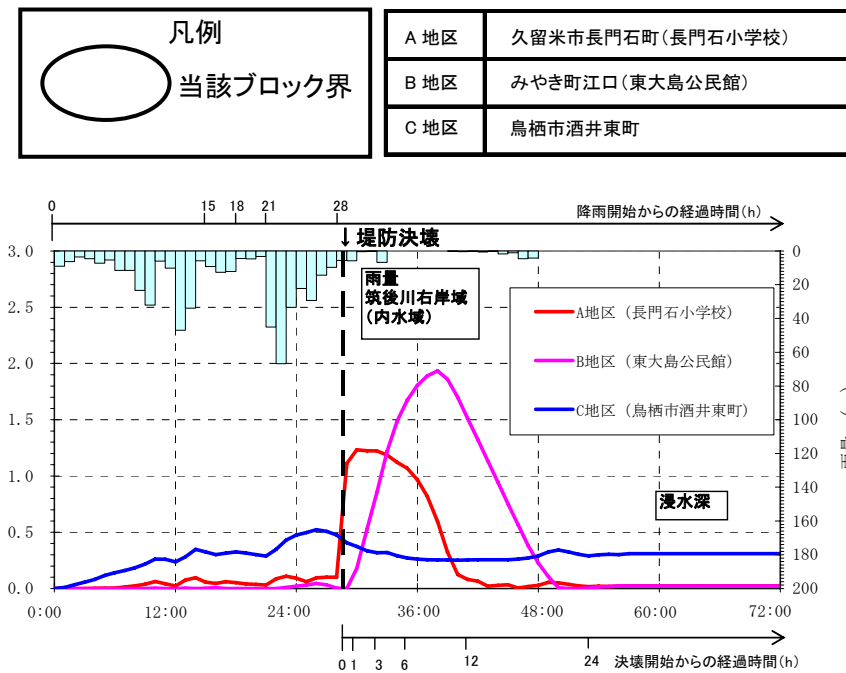
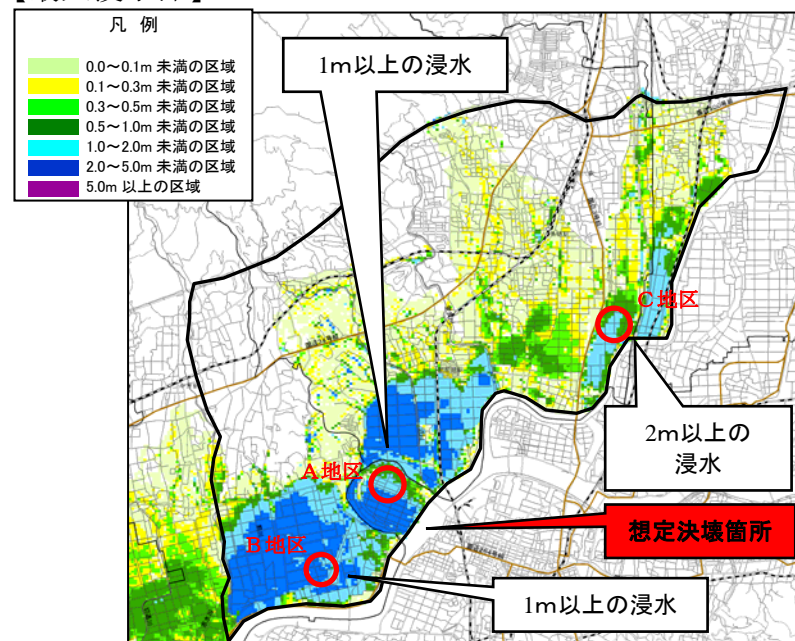
（決壊直前までの状況）

筑後川沿川の広範囲で0.5m以上の内水による浸水が発生。

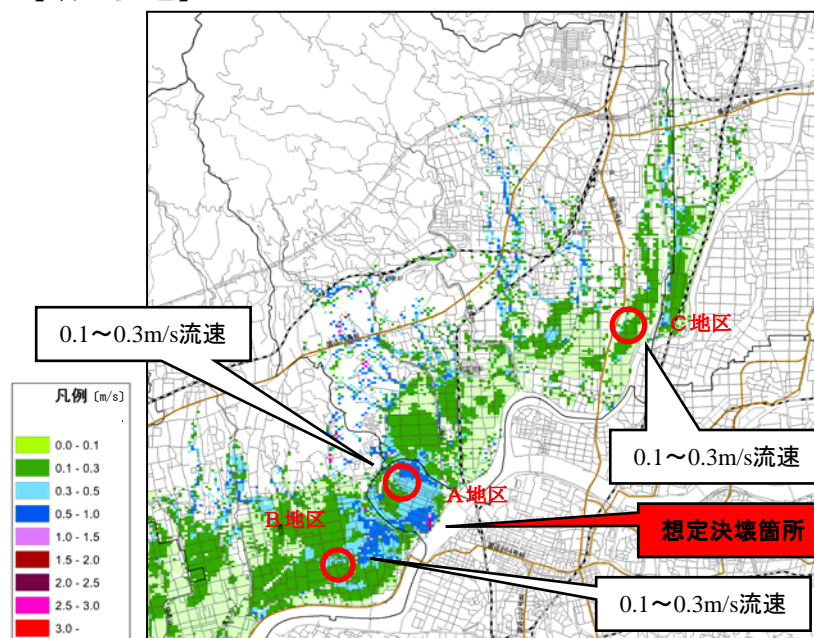
（決壊後から概ね浸水解消までの状況）

決壊箇所からのはん濫水は、筑後川右岸沿いを伝播し、3時間程度でみやき町江口（東大島公民館・B地区）付近まで到達。ブロック全域で、決壊12時間後から浸水解消に向かうが2日後には二山目の雨の影響で再び浸水が拡大する。

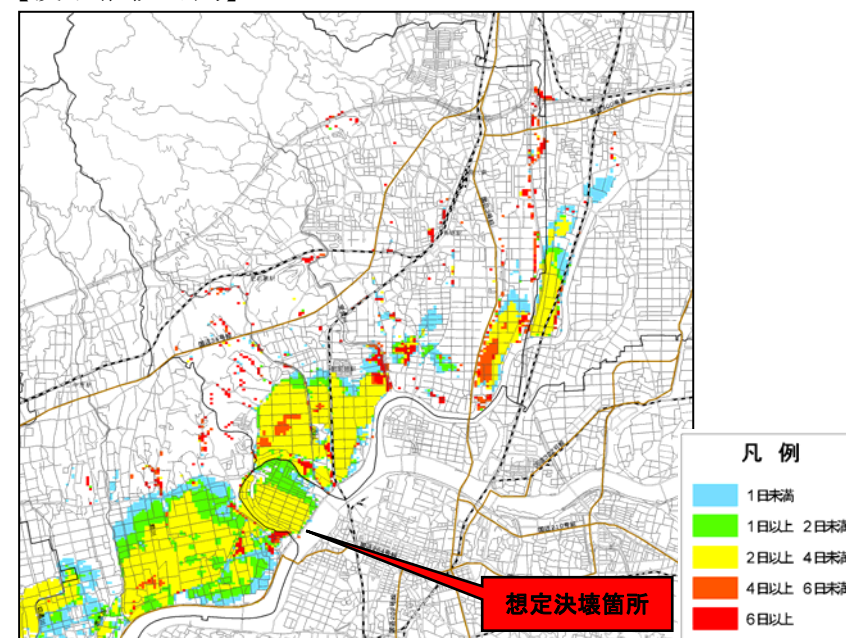
## 【最大浸水深】



## 【最大流速】

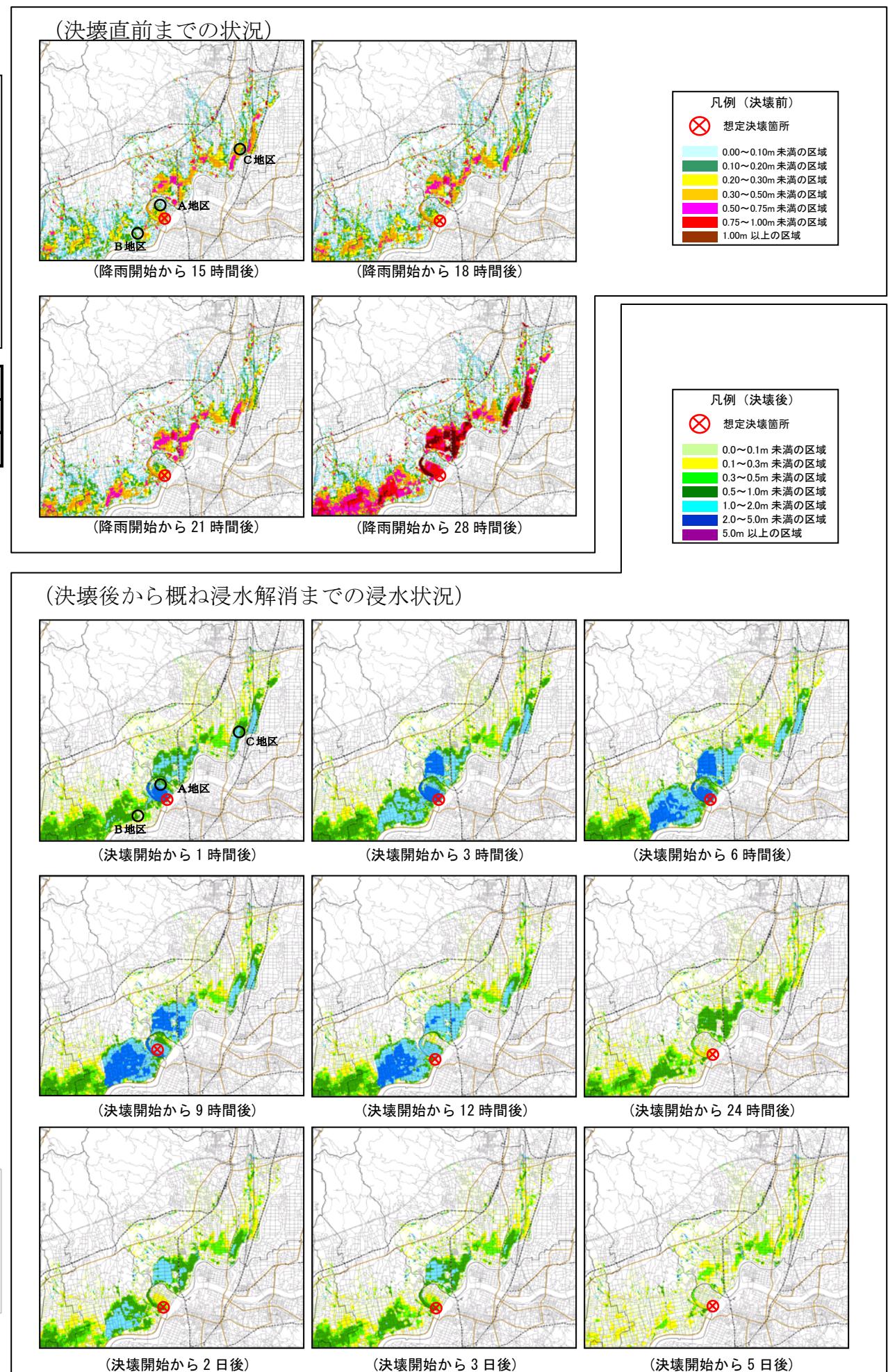


## 【浸水継続時間】



※浸水深 50cm 以上を対象とする。

## 【浸水状況】

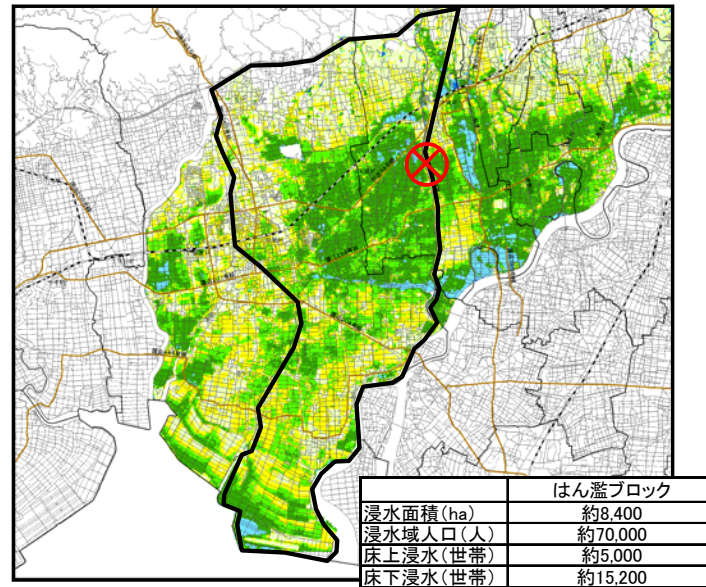


筑後川 ①佐賀市街地拡散型はん濫  
(堤防決壊地点：城原川右岸 5.6km)

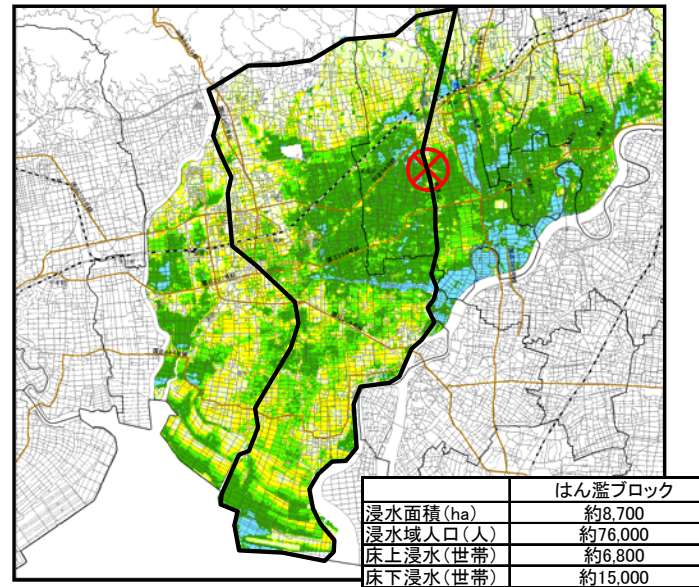
気候変動の影響による最大浸水深の変化 (1.0倍、1.1倍、1.2倍の比較)

- 1.0倍では、県道36号付近で蔵堂入江川を35cm程度越えていたが、気候変動により降雨が増大する場合には40~45cm程度となり被害が拡大する。
- さらに、国道444号も、佐賀江川北側付近や福富町中学校付近で越えており、降雨の増大による越流量の増大に伴い被害が拡大する。

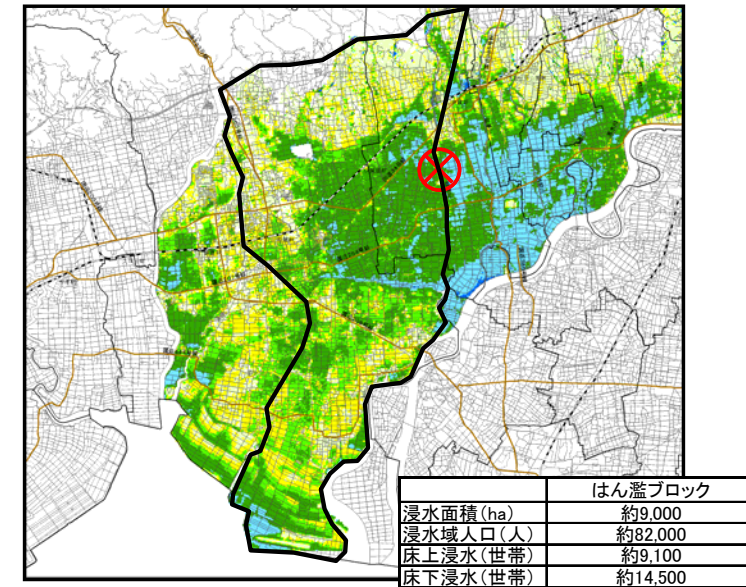
A: 150年に1回の確率で発生する  
洪水流量



B: 約1割増の洪水流量



C: 約2割増の洪水流量

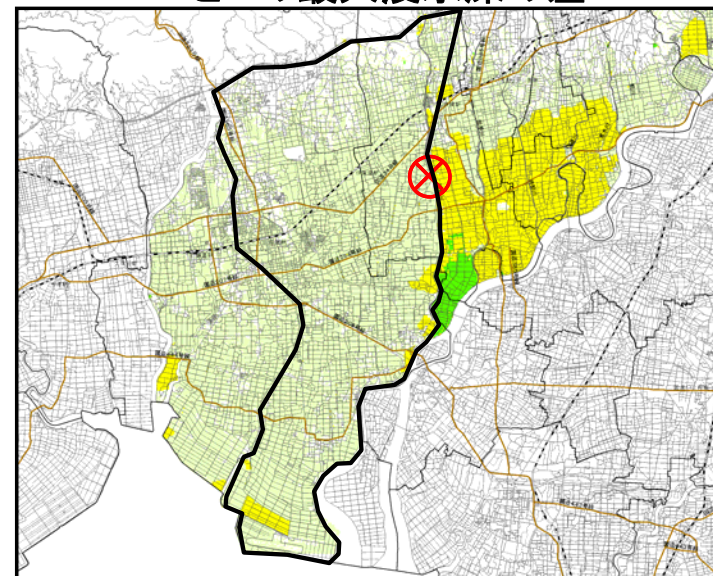


注) 図中の数字は、有効数字2桁により四捨五入した数値となっている。  
このため、浸水面積、浸水域人口の増加割合と一致しない場合がある。

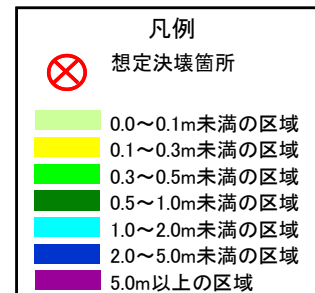
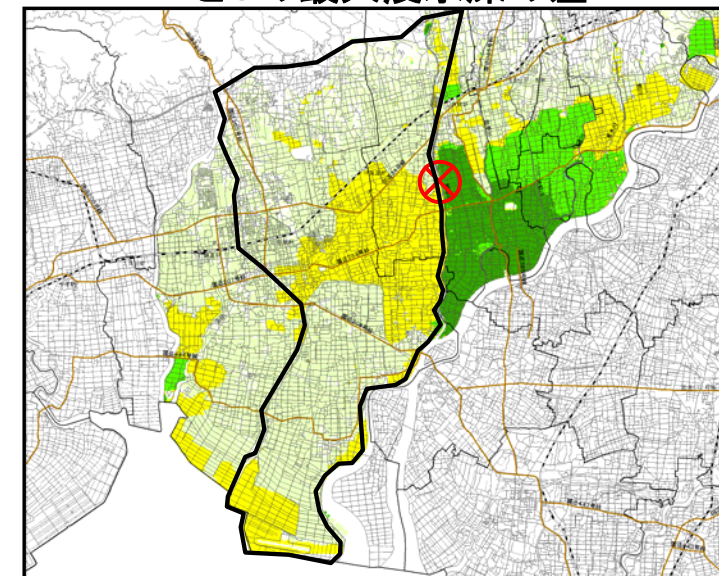
1/150→1割増

1/150→2割増

AとBの最大浸水深の差



AとCの最大浸水深の差

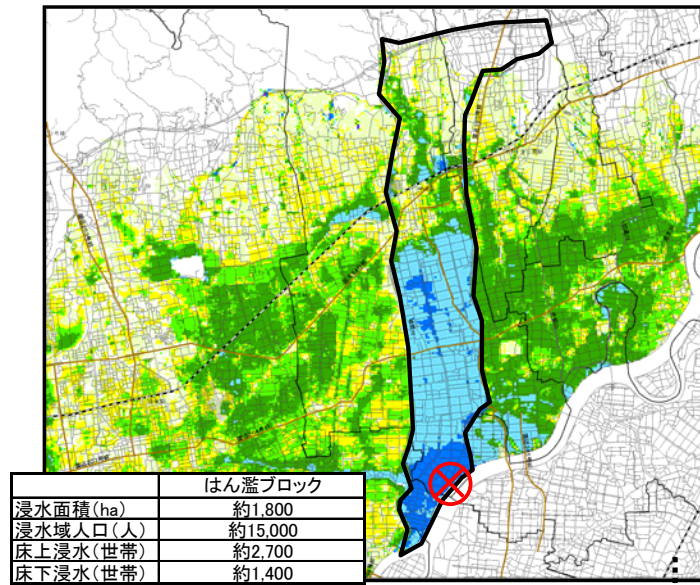


筑後川 ②神崎市街地貯留型はん濫  
(堤防決壊地点：筑後川右岸 10.8km)

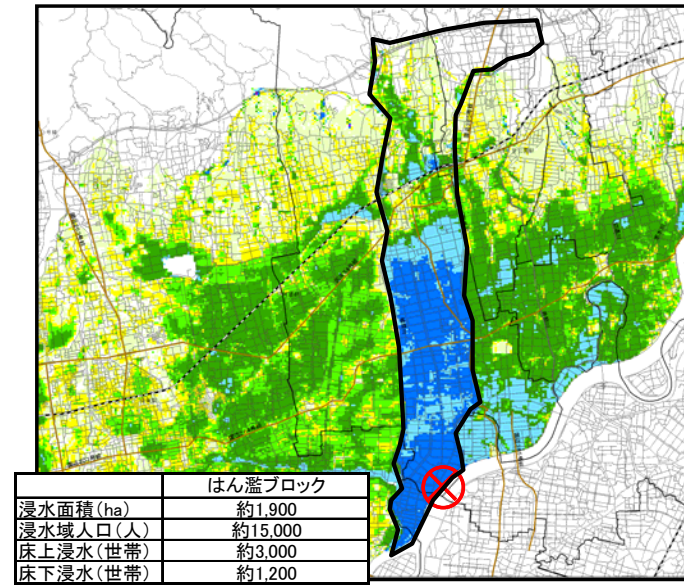
気候変動の影響による最大浸水深の変化 (1.0倍、1.1倍、1.2倍の比較)

- 1.0倍では、県道36号付近で蔵堂入江川を35cm程度越えていたが、気候変動により降雨が増大する場合には40~45cm程度となり被害が拡大する。
- さらに、国道444号も、佐賀江川北側付近や福富町中学校付近で越えており、降雨の増大による越流量の増大に伴い被害が拡大する。

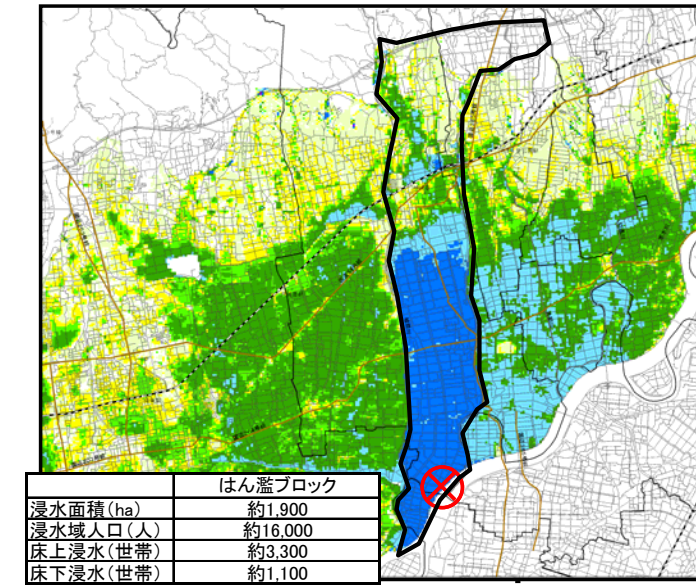
A: 150年に1回の確率で発生する  
洪水流量



B: 約1割増の洪水流量



C: 約2割増の洪水流量

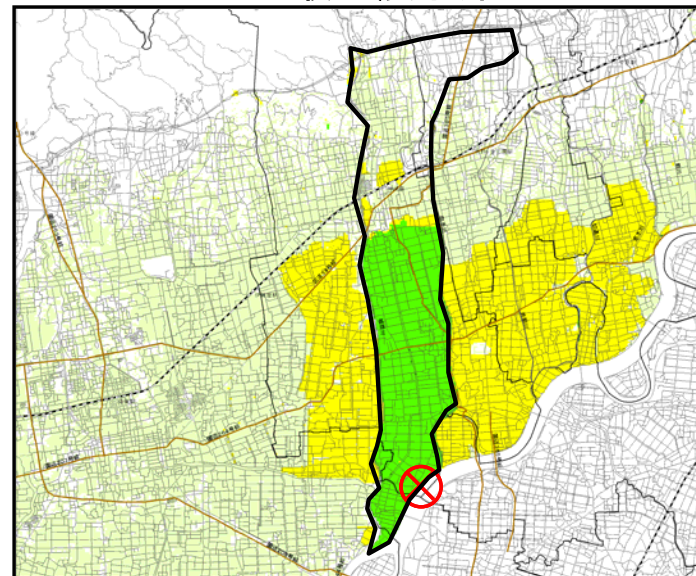


注) 図中の数字は、有効数字2桁により四捨五入した数値となっている。  
このため、浸水面積、浸水域人口の増加割合と一致しない場合がある。

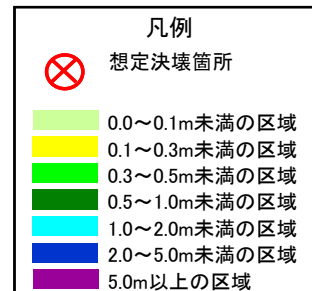
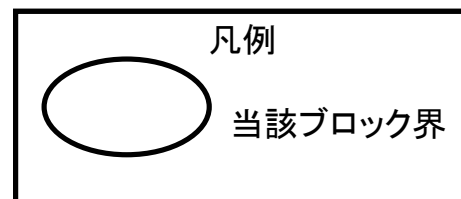
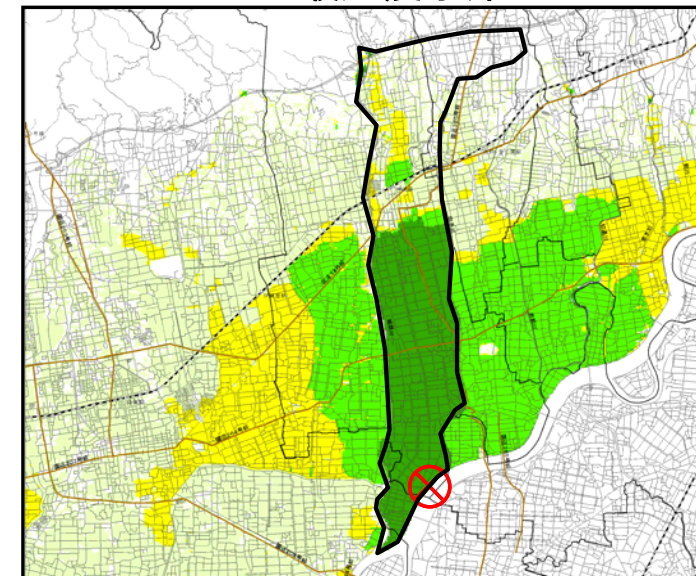
1/150→1割増

1/150→2割増

AとBの最大浸水深の差



AとCの最大浸水深の差

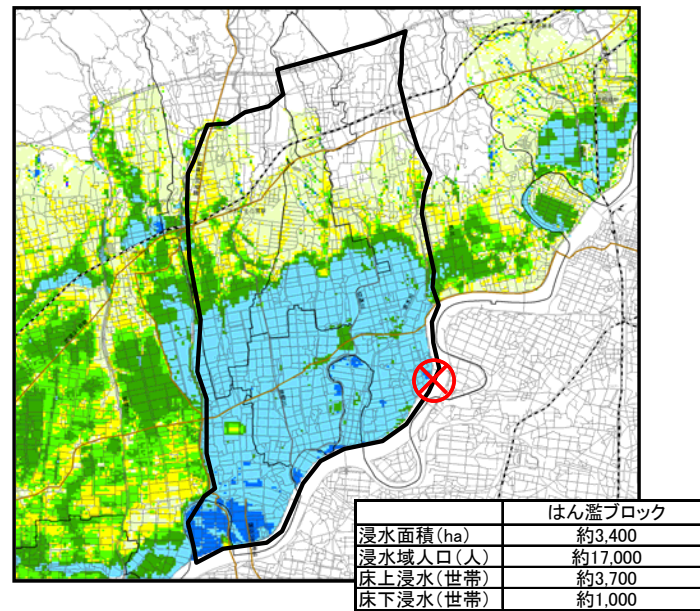


筑後川 ③田手川以東拡散型はん濫  
(堤防決壊地点：筑後川右岸 19.4km)

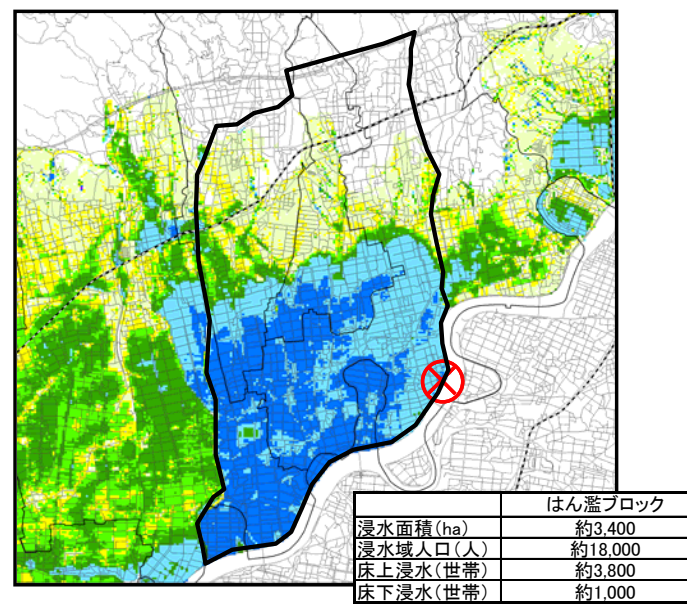
気候変動の影響による最大浸水深の変化 (1.0倍、1.1倍、1.2倍の比較)

- 1.0倍では、県道36号付近で蔵堂入江川を35cm程度越えていたが、気候変動により降雨が増大する場合には40~45cm程度となり被害が拡大する。
- さらに、国道444号も、佐賀江川北側付近や福富町中学校付近で越えており、降雨の増大による越流量の増大に伴い被害が拡大する。

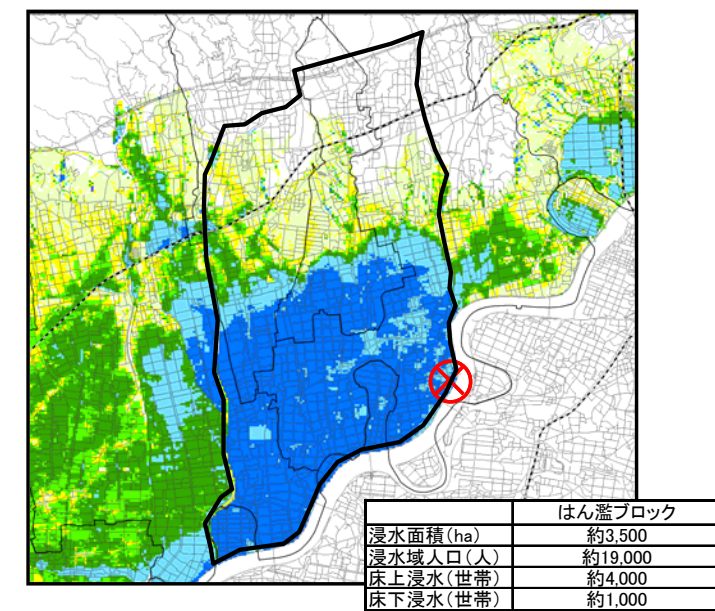
A: 150年に1回の確率で発生する  
洪水流量



B: 約1割増の洪水流量



C: 約2割増の洪水流量

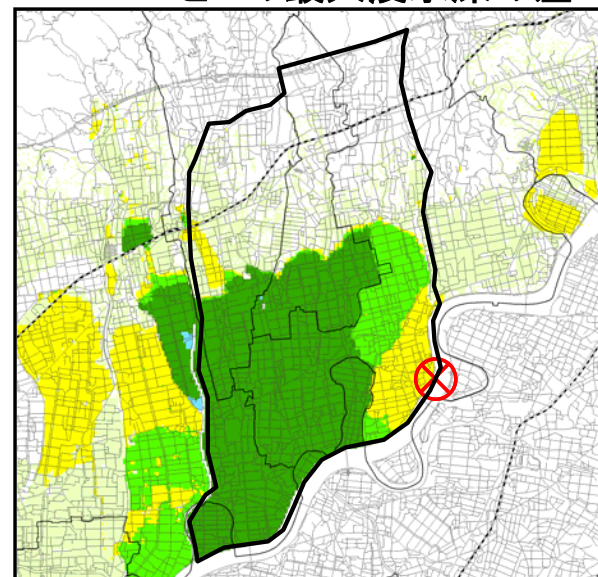


注) 図中の数字は、有効数字2桁により四捨五入した数値となっている。  
このため、浸水面積、浸水域人口の増加割合と一致しない場合がある。

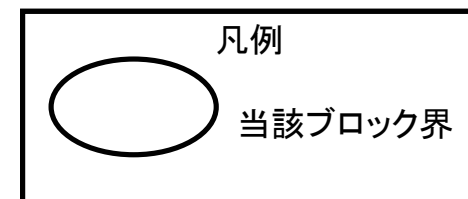
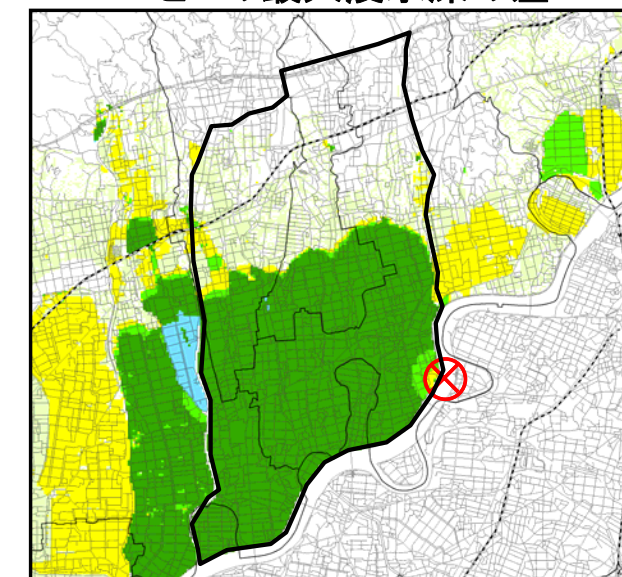
1/150→1割増

1/150→2割増

AとBの最大浸水深の差



AとCの最大浸水深の差

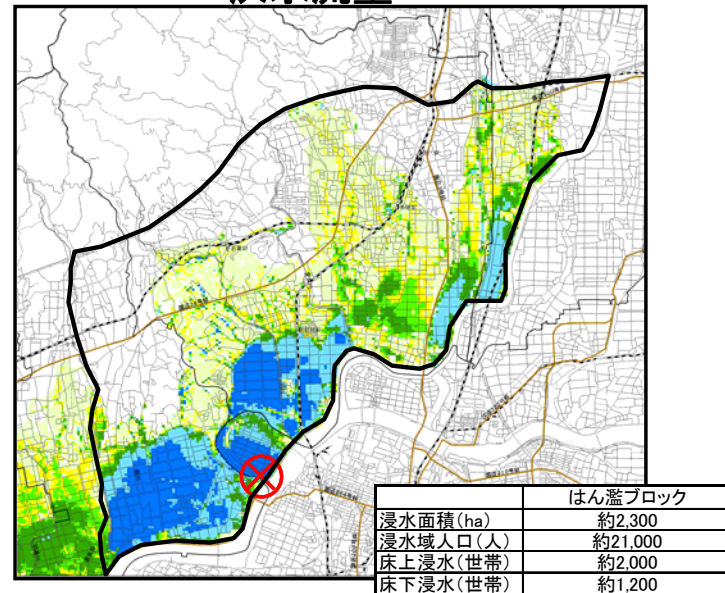


筑後川 ④寒水川以東拡散型はん濫  
(堤防決壊地点：筑後川右岸 25.4km)

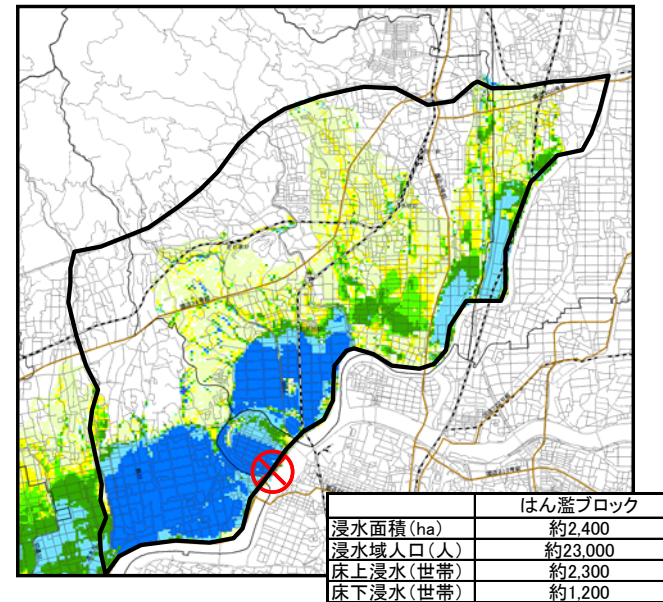
気候変動の影響による最大浸水深の変化 (1.0倍、1.1倍、1.2倍の比較)

- 1.0倍では、県道36号付近で蔵堂入江川を35cm程度越えていたが、気候変動により降雨が増大する場合には40~45cm程度となり被害が拡大する。
- さらに、国道444号も、佐賀江川北側付近や福富町中学校付近で越えており、降雨の増大による越流量の増大に伴い被害が拡大する。

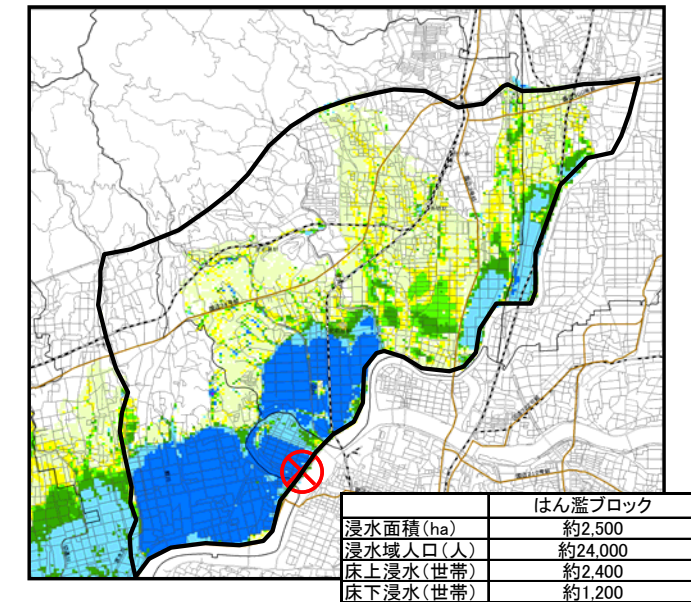
A: 150年に1回の確率で発生する  
洪水流量



B: 約1割増の洪水流量



C: 約2割増の洪水流量

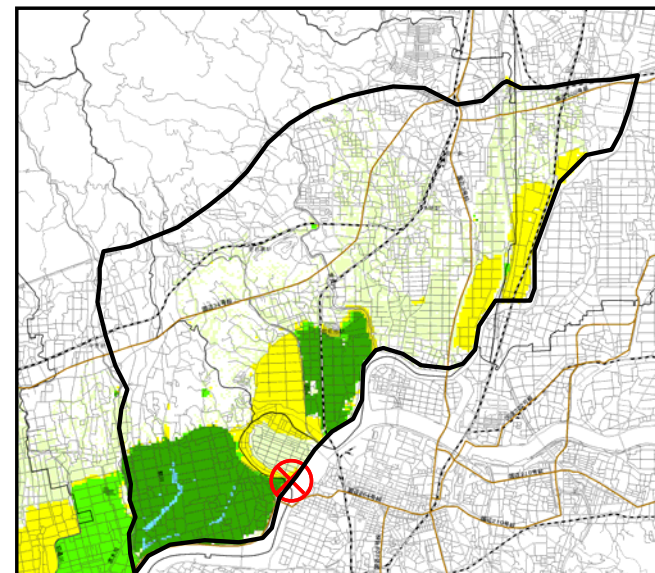


注) 図中の数字は、有効数字2桁により四捨五入した数値となっている。  
このため、浸水面積、浸水域人口の増加割合と一致しない場合がある。

1/150→1割増

1/150→2割増

AとBの最大浸水深の差



AとCの最大浸水深の差

